



鈴木化学工業所の本社

自動車用樹脂部品メーカーの鈴木化学工業所(本社愛知県幸田町六栗左右作2の1、小幡和史社長、電話0564・64・1058)は、数ある自動車部品の中でも人々の命に関わる保安重要部品を手掛けている。高い技術力と徹底した品質管理で、安心・安全を届ける縁の下の力持ちだ。自動車業界が大きく変化する中、確かなものづくりで持続的な成長を目指す。(三河・小山楓)

鈴木化学工業所 本社工場



同社は1960年設立。樹脂成形と溶着をコア技術に、自動車の冷却水やブレーキオイルのタンク、冷却水のパイプ、燃料タンクのバルブなど、自動車が安全に走行するために欠かせない高い精度の求められる部品を手掛けている。顧客からのあら

「成形」と「溶着」の確かな技術



生産準備が要となる

では、加熱した熱板で樹脂を溶かして超音波溶着など、製品に合わせて接合する熱板溶着や、超えてさまざまな技術で対応する。音波振動による摩擦熱を利用する。溶着が不十分な箇所がある

顧客の細かいニーズに対応

ゆるニーズに対応し、月300品番以上を製造する。現在は、本社工場と幸田工場(愛知県幸田町)の2拠点で製造している。主な製造の流れは、まず、製品の図面から金型の設計を行い、材料となるプラスチックを加熱して溶かし、金型に射出して部品を成形する。不良品を減らすため、加熱する温度や時間を細かく調整する生産準備が重要となっており、長いときには1年以上かけて調整を重ねていく。また、多品種を扱う同社では、金型の段取り替えや金型の傷みや汚れを確認してメンテナンスをする金型保全も重要な業務だ。もう一方のコア技術「溶着」

地域に必要とされる企業に



金型のメンテナンスを行う金型保全

と事故につながるため、エアリーで漏れを検査し、3次元測定器などを使って製品の精密測定をしている。

行く。これが同社の製品の高い品質の証だ。小幡社長は「自動車業界は大きく変わっているが、その変化にしっかり対応し、地域に必要な



精密測定で品質向上



コア技術の「溶着」